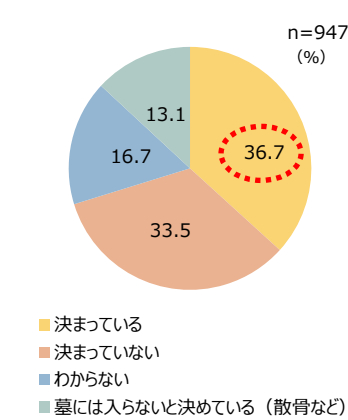


01 Woman's Trend

子どもに迷惑をかけたくないから…高まる永代供養、共同墓指向

『脱・家の墓』で自由度上昇。狙え！女ゴコロに響く墓

グラフ1 もしもの時に入る
お墓は決まっているか？

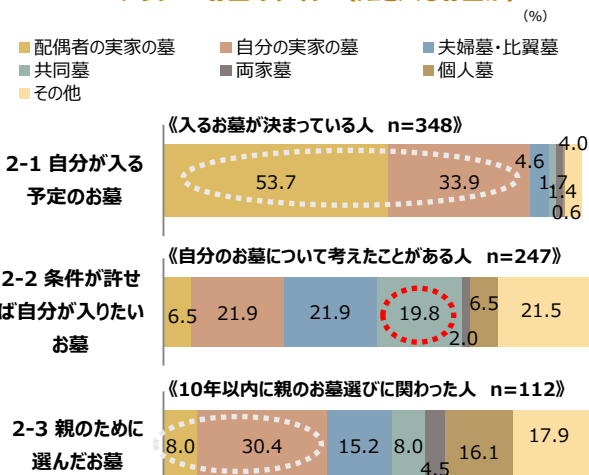


散骨や納骨堂、樹木葬、宇宙葬(!)と、“死後の居場所”の選択肢が増える中、女性たちは自分のお墓をどうしたいと思っているのだろうか？ 947人が回答したアンケートの結果から見てみたい。

いざという時に「入るお墓が決まっている」人は全体の37%（グラフ1）。これは年代と共に増え、60代以上では約6割に。入る予定なのは「配偶者の実家の墓」が54%、「自分の実家の墓」が34%。計88%が従来型の“家の墓”だ。形態も霊園や寺院墓地が約9割（グラフ2-1、3-1）。一方、お墓が決まっていない人のうち、「お墓について考えたことがある」人は56%。この人たちが“条件が許せば入りたい”のは、「実家の墓」「夫婦墓」(各22%)や「共同墓」(20%)。「配偶者の実家の墓」は、7%と1ヶ所だ。形態では27%が合祀墓、合同墓などの「永代供養墓」を挙げ、次に19%が「樹木葬」を希望すると回答した（グラフ2-2、3-2）。「共同墓」を選んだ理由

2018.9.5～9.9 リビングWeb・あんふあんWebのWeb調査 集計数：947人 平均年齢：46.7歳/ 内訳：独身24.4% 既婚75.6%/ 専業主婦37.2% フルタイム31.9% パート・アルバイト24.7%、そのほか6.2%/ 30代以下30.5% 40代31.3% 50代21.6% 60代以上16.6%/ 子どもがいる63.4% いない36.6% *本文の数字は小数点以下四捨五入、グラフは小数点1位以下四捨五入

グラフ2 お墓のタイプ (誰と入るお墓か)

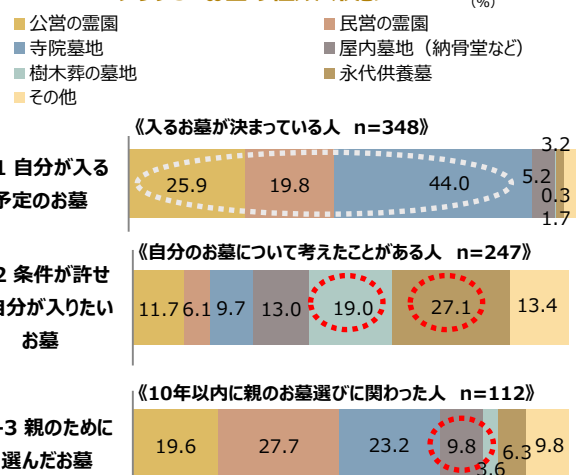


(FA)では、「子どもに迷惑をかけたくない」「墓守をさせたくない」という声が目立つ。

また10年以内に「親の墓」選びに関わった人が実際に建てたお墓では、従来型の“家の墓”は38%。代わりに「個人墓」「夫婦墓」のウエイトが増し、形態も「納骨堂」が約1割と、新しいタイプが少しずつ顕在化している（グラフ2-3、3-3）。

自分のお墓選びで重視するのは、まず「価格」や「管理費」など、お金のこと。3位に「子どもや家族の行きやすさ」、4位に「承継者が絶えた後の対応」が入った（グラフ4）。
「先祖代々の墓」は今後かわめてレアなものになっていくと話すのは、港区や大田区など、都市部の寺院墓地で、コンパクトな樹木葬を企画・販売するアンカレッジの伊藤照男さん。
「“家は長男が継いで代々伝えるもの”という価値観はこの1.5世代ぐらいで大きく変わった。少子化が進む中、親を見送った世代も、お墓の承継

グラフ3 お墓の種類・形態



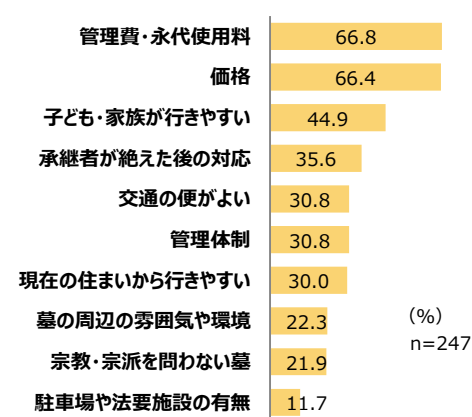
で相当苦労してきている。その実感が、子ども世代に負担が少ない『永代供養墓』の人気につながっているのではないかと

遠くお参りに行けない、守る人がいないといった理由で、お墓を片付けて敷地を返す、“墓じまい”“改葬”については、「経験がある」「相談・検討中」の回答は計16%（グラフ5）。ただし、これも「今は、建てるお墓よりも、片づけるお墓の方が多い石材店もあるほど増えている」と伊藤さん。

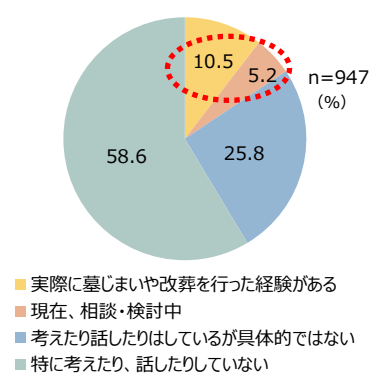
女性は男性よりも平均寿命が長く、妻は夫より年下のことが多い。つまり夫や自身のお墓を新しく選ぶのは、多くの場合、女性だ。そして“脱・夫の家の墓”を目指す女たちのお墓選びは、男性に比べて、格段に自由度が高いそう。樹々や花に囲まれて眠りたいという、ロマンチックな願いをかなえる樹木葬が人気のもうなずける。今後、狙うべきは、女ゴコロに響く墓。その新しい提案や訴求には、さらなる可能性がありそうだ。（滑川恵理子）

表1.条件が許せば、共同墓に入りたい理由 (FA)	年齢
子どもたちに管理の迷惑をかけたくない	37
家族でなくても、誰かが、お墓に来てくれるから	54
なるだけ安価で済ませたいので	59
夫と私の実家の墓守が大変。子どもにはさせたくない	65

グラフ4 (自分のお墓について考えたことがある) お墓選びで重視するポイント (複数回答)



グラフ5 家族や親戚で、墓じまいや改葬を実際に行ったり、話題にしたことはあるか？



02 Working Woman's Real

【働くアラサーシングル女性の美意識】
キレイは仕事に役立ち、
仕事はキレイにつながると実感している

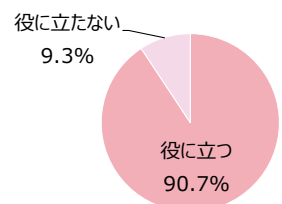
働くアラサーシングル女性に、キレイ（自身の外見・内面）と仕事の関係について調査した。仕事をするうえで「キレイは役に立つ」と思っている人は約9割。どのように役立つかについてのフリーアンサーでは「仕事相手に好感を持ってもらえるので関係性を構築しやすい」「同じことを説明するときに説得力が違う」といった意見が。

一方、仕事をしていることが「キレイになることに役立つ」という人は6割強。“キレイ”と“仕事”は相乗効果のあるプラスの関係だと実感している人が多数派だ。

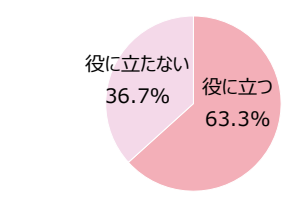
働き続ける女性が増えてきている中、アラサーシングル女性にとって、職場の女性は“大人のキレイ”を考えるきっかけの一つ。とはいえ、職場に「憧れている女性“がいる」(21.7%)より、「反面教師としている女性“がいる」(52.6%)が多いという厳しめの結果に。どんな女性に憧れるかを聞くと、上位は「知性や教養がある」(41.4%)、「穏やかで余裕がある」(38.2%)、「気遣いや気配りができる」(36.7%)となった。

2018.6.12～6.24、全国の働く女性（25歳～34歳）を対象としたWeb調査 集計数:461

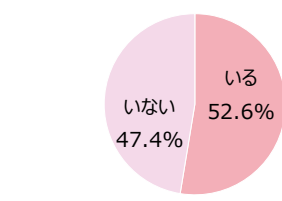
【仕事をするうえで、キレイは役に立つか？】



【仕事をしていることが、キレイになることに役立つか？】



【職場に反面教師としている人がいるか？】

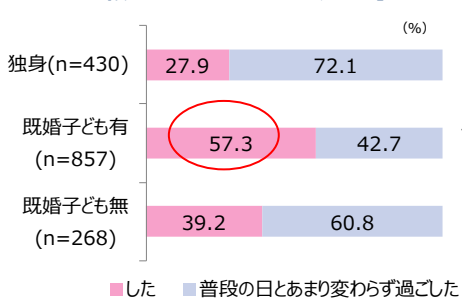


03 Seasonal Data

クリスマスに関するデータはくらしHOWサイト「暮らしの歳時記と消費」に掲載中！

クリスマスはおうち志向！華やかパーティーやデートはもはや少数派
家族層はツリーにホームパで自宅イベント満喫

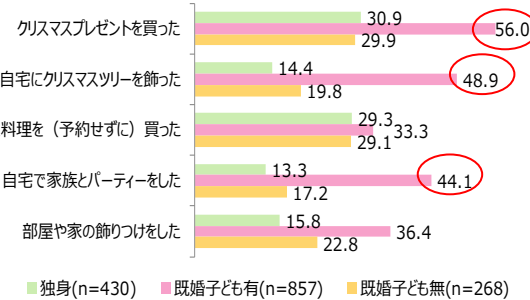
【昨年、クリスマスに普段の日と違うことをしましたか？】



昨年のクリスマスに普段と違うことを「した」人は、子どものいる既婚女性で57%。他の層と比べると2～3割高く、家族イベントとしての盛り上がりが見える。未婚、子どもの有無で一緒に過ごす相手は変われども場所は自宅で過ごしたという人が主流だ。

昨年のクリスマス期間にやったことは、「プレゼントを買った」「ツリーを飾った」「クリスマス料理を（予約せずに）買った」がトップ3。「イルミネーションを見に行った」「外食した」など外出した人は1割前後と少なく、自宅

【昨年のクリスマス期間にやったこと】※上位5項目のみ



で楽しむ準備や行動が上位を占める。子どものいる既婚女性は、上位8項目のうち「プレゼントを買った」以外はすべて独身や既婚（子ども無）を上回っており、特に「プレゼントを買った」「ツリーを飾った」「家族とホームパーティーをした」の割合が非常に高かった。

独身の7割以上が普段と変わらず過ごしており、「イブは恋人の日」と言われていたのも今や昔。ただし今年のイブは振休。独身や既婚（子ども無）も半数以上が「普段と違うことをしたい」とイベント参加に前向きだった。

調査方法/Webアンケート 調査対象/「リビングWeb」「シティリビングWeb」「あんふあんWeb」ユーザー【回答者プロフィール】未婚：独身27.7%、既婚72.3% 子どもの有無：いる60.1%、いない39.9% 調査期間/2018.09.12～09.17 有効回答数/女性1555人（平均年齢：44.0歳）